

ぶらりまち紀行

榊神社の境内は、地域文化の発祥の地
山口座の三番叟もここで歴史を重ねてきた
いつの時代も変わらぬ郷土芸能への敬愛心は
世代を超えてしっかりと受け継がれている

「地域の宝」
山口座木偶保存会(山口町)



かつて、榊神社の境内には農村舞台があり、藤原惣之丞座(通称・山口座)による人形浄瑠璃芝居が盛んに行われていた。その始まりは天保年間(およそ180年前)、地元のじやまの農民が奉納する「地芝居」では最も古い形式とされる。現存する62体の木偶人形は、市の有形民俗文化財にも指定され、阿波木偶文化の足跡と先人たちの思いを今に伝えている。

戦後、娯楽の多様化やテレビの普及などで山口座の活動は衰退したが、数人の有志によって三番叟だけは継承された。昭和60年頃からは榊神社敬神婦人会も加わり再興に力を注ぐ。2年前には山口座木偶保存会に受け継がれ、12人の有志が妙技に磨きをかけている。「ありがたい舞だから喜んでやりなさい」。先輩の教えを胸に稽古に励む姿は、凛として美しい。

天下泰平・家内安全・五穀豊穡の願いを込めて奉納される三番叟。春秋の例祭では、こうした農村文化の風情も楽しむことができる。浄瑠璃は「きれいな宝石」の意。その美しさに魅せられ、それを魅せる人々のきらきらと輝く笑顔は、まさに地域の宝。

